

とっこばやし

# 独鈷囃子保存会の 取り組み



広報市民リポーターだより No.2

リポーター

ゆきただ とっこ  
神成幸忠さん(比内・独鈷)

今回は、私の住む(比内)独鈷地区に古くから伝わる「独鈷囃子」の保存、伝承に取り組み皆さんをレポートします。

独鈷囃子は、毎年独鈷大日神社の宵宮祭に奉納されています。長い歴史の中で、何度も廃れそうになりましたが、ふるさとを愛する住民の手で受け継がれ、昨年から待望の山車(だし)の運行も再開されました。

私たちの地域が誇る伝統文化である「独鈷囃子」を紹介し、次世代を担う子供たちの姿を中心にレポートします。

## 初代城主の

### 「剣舞」がルーツ

浅利則頼公が甲斐の国(今の山梨県)からこの地に移り独鈷城を築いたのは天文7(1538)年7月と言いますから、今から467年も前になります。築城を祝う酒宴のときに、城主自ら剣を振るって舞い踊り、城内の婦女子にも銀扇を与えて踊らせたのが、独鈷囃子の中心である「剣舞」の発端といわれています。

その後、浅利氏の滅亡とともに、踊りも廃れたかに思われました。しかし独鈷郷中でさやかに平和と繁栄を願う踊りとして伝えられ、安政年間(1854~1860)には青年団など

周辺村内の若者の手で独鈷囃子として復活し、大日神社の祭典(旧暦5月28日)に奉納が続けられてきました。

## 比内初の無形民俗文化財にも指定されました

戦後も独青団(地元青年団)によって山車の運行などが行われてきましたが、若い世代の減少とともに活動が難しくなり、独鈷囃子の伝承は地元の民謡愛好団体(東民謡研究会)の努力により続けられました。

昭和56年、大日神社の隣に民舞伝習館が建設されたことで、地元の伝統文化である独鈷囃子を伝承する機運が改めて盛り上がりはじまりました。昭和59年8月には、保存団体の名称を「独鈷囃子保存会」と命名し、伝統文化を次の世代に伝える活動を毎年続けて参りました。

長い活動の成果が実り、平成12年12月には、比内町としては初の無形民俗文化財として指定を受け、その後も独鈷囃子を守り伝える活動を続けています。

## 復活した山車

かつての独鈷囃子は、踊り手も笛や太鼓とともに歩きながら、町内を練り歩く形が原形でしたが、時代の流れで踊り手も囃子方も山車に乗る形に変わりました。たくさんの人の手で引